



第2章

深谷市の子育て家庭の現状



第2章では、深谷市の人口や世帯状況、子ども・子育てに関する統計を掲載しています。

また、市民の皆様にご協力いただいた「市民意向調査」の結果概要についても掲載しています。

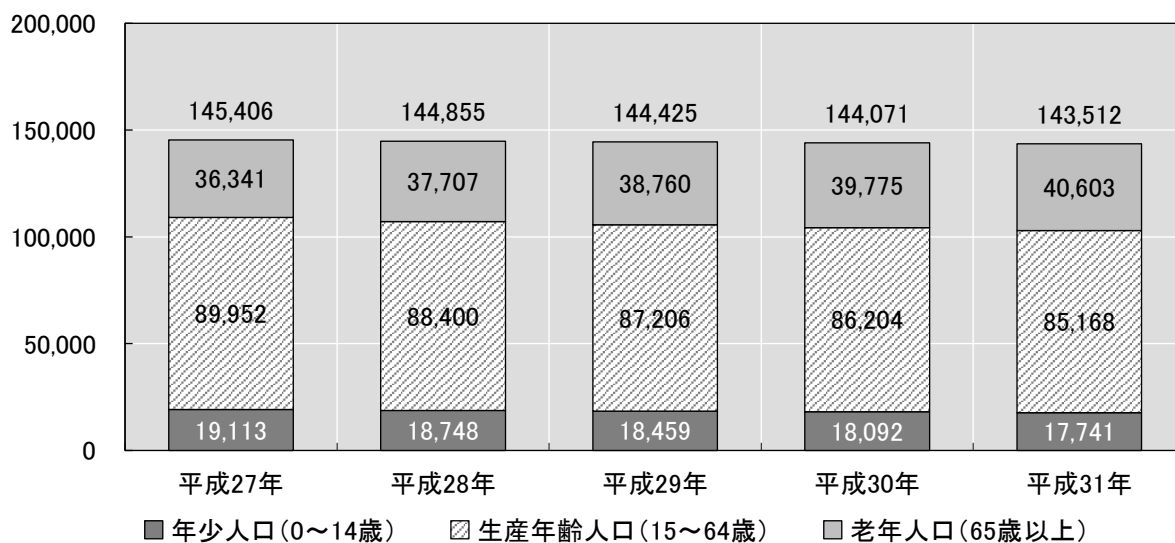
2-1 各種統計資料から見る現状

(1) 人口の推移

① 総人口の推移・推計

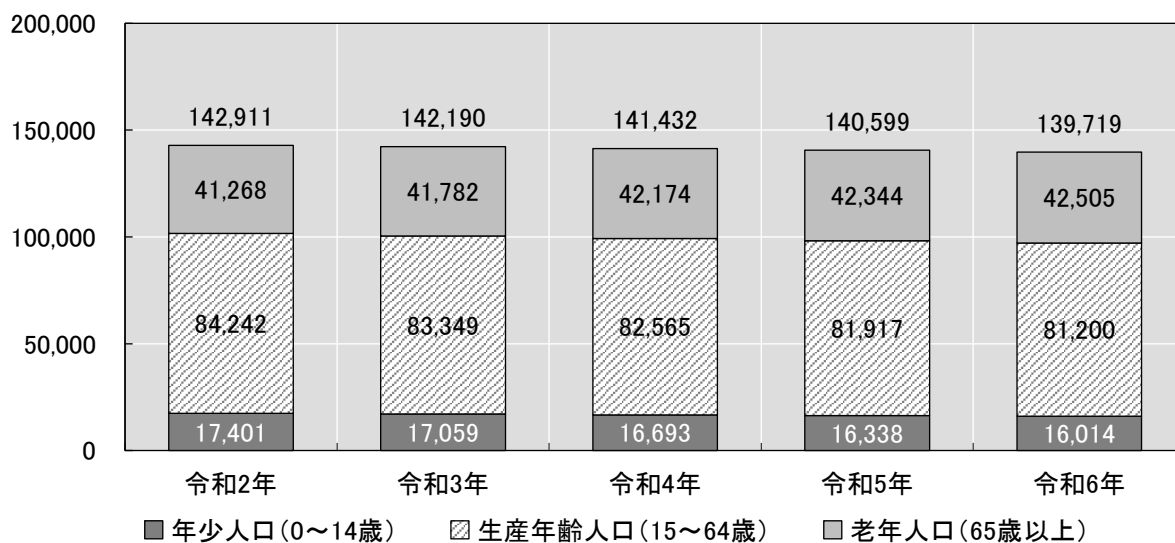
平成27年から平成31年にかけて、総人口は減少傾向で推移しており、令和2年から令和6年にかけても、同様に減少傾向が続くと見込まれます。

■ 総人口の推移（人）



出典：住民基本台帳(各年4月1日)

■ 総人口の推計（人）



※ コーホート変化率法による推計

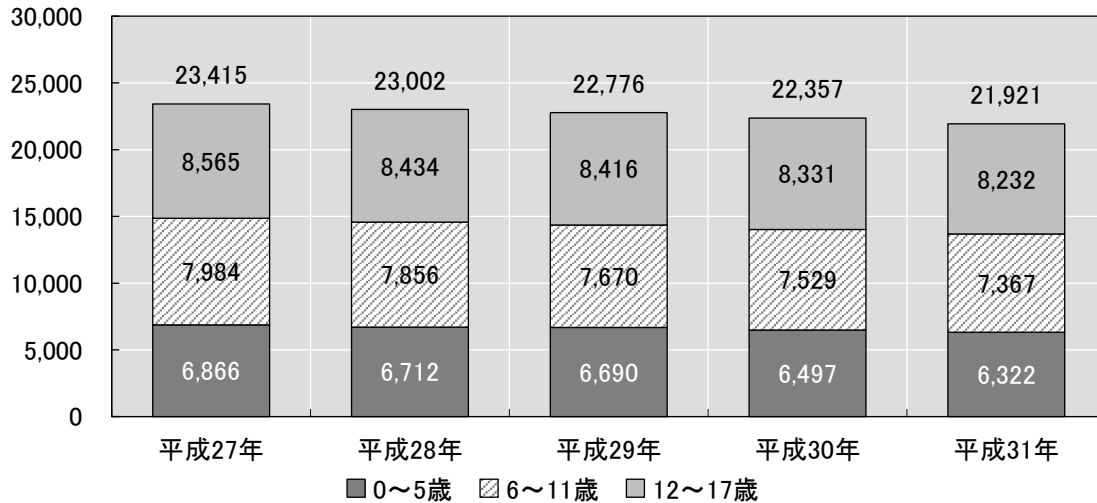


② 子ども人口の推移・推計

平成27年から平成31年にかけて、子ども人口は減少傾向となっており、平成27年の23,415人から平成31年の21,921人へと、1,494人の減少となっています。

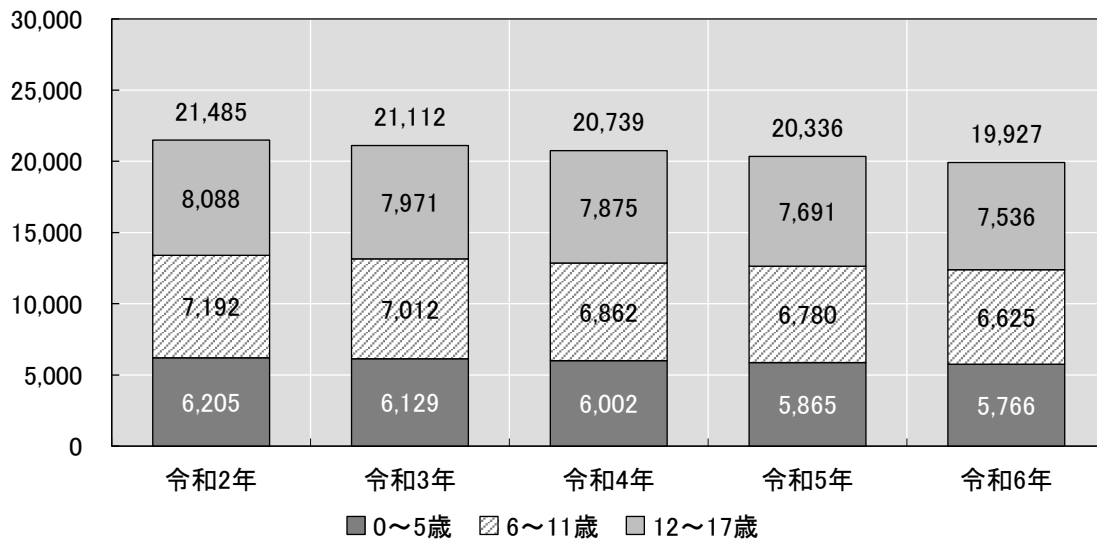
令和2年から令和6年にかけても、同様に減少傾向が続くと見込まれます。

■ 子ども人口の推移（人）



出典：住民基本台帳（各年4月1日）

■ 子ども人口の推計（人）



※ コーホート変化率法による推計

(2) 出生の状況

平成27年から平成30年にかけて、出生数は減少傾向にあり、平成30年には1,000人を下回りました。

また、合計特殊出生率（15～49歳の1人の女性が生涯に産むと見込まれる子どもの数）の国・埼玉県との比較では、本市の合計特殊出生率は国・埼玉県の数値を下回っています。

■ 出生数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
出生数	1,054	1,047	1,040	969

出典：市民課

■ 合計特殊出生率の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
国	1.45	1.44	1.43	1.42
埼玉県	1.39	1.37	1.36	1.34
深谷市	1.39	1.32	1.34	1.28

出典：埼玉県人口動態総覧



(3) 世帯等の状況

① 世帯数の推移

平成27年から平成31年にかけて、世帯数については、57,143世帯から59,633世帯へと約2,500世帯増加しています。一方で、1世帯あたりの平均人数については、同期間で2.54人から2.41人へと減少傾向となっており、背景に核家族化の進行などが考えられます。

■ 世帯数・一世帯あたりの平均人数の推移（世帯・人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
世帯数	57,143	57,785	58,299	59,001	59,633
1世帯あたりの平均人数	2.54	2.51	2.48	2.44	2.41

出典：市民課（各年4月1日）

② 婚姻・離婚件数の推移

平成27年から平成30年にかけて、婚姻件数は622件から673件の間で推移しています。離婚件数については、同期間で216件から270件の間で推移しています。

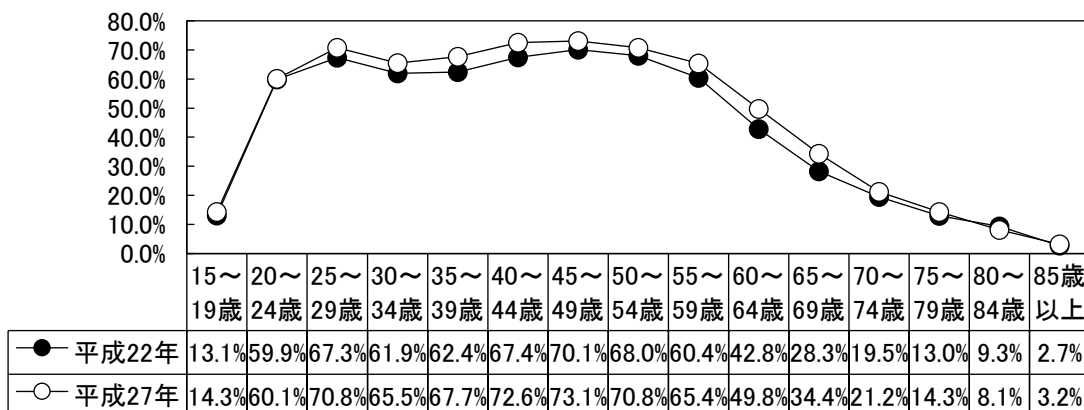
■ 婚姻・離婚件数の推移（件）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
婚姻数	673	622	637	628
離婚数	216	257	270	222

出典：市民課

③ 女性の就業の状況

女性の就業率は、全国的な傾向と同様に、結婚・出産期にあたる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇する、いわゆる「M字カーブ」を描いています。



出典：国勢調査より算出

(4) 保育園・幼稚園の状況

① 保育園・幼稚園児数の推移

平成27年から平成31年にかけて、保育園児数は3,164人から3,237人へと73人増加しています。一方で幼稚園児数は、同期間に766人から666人へと100人減少しています。

■ 保育園・幼稚園児数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
保育園児数	3,164	3,166	3,138	3,117	3,237
幼稚園児数	766	746	761	731	666

出典：保育園児数：保育課（各年4月1日）、幼稚園児数：保育課・学校教育課（各年5月1日）

② 待機児童数の推移

保育園の待機児童数は、平成30年時点で42人となっていますが、平成31年には0人となっています。幼稚園には待機児童はいません。

■ 保育園児数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
定員数	3,181	3,246	3,258	3,315	3,532
入園希望者数	3,251	3,289	3,315	3,340	3,406
待機児童数	1	0	2	42	0

※ 入園希望者数から待機児童数を差し引いた数は、入園決定しても地域や兄弟・姉妹の都合等により入園を見送る場合があるため、かならずしも①の表の保育園児数と一致しません。

出典：保育課（各年4月1日）

■ 幼稚園児数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
定員数	1,980	1,840	1,490	1,430	1,310
入園希望者数	766	746	761	731	666
待機児童数	0	0	0	0	0

出典：保育課、学校教育課（各年5月1日）



(5) 小学校、学童保育室、中学校の状況

① 小学校児童数・学童保育室利用児童数の推移

平成27年から平成31年にかけて、小学校児童数は、7,898人から7,296人へと602人減少しています。一方で学童保育室利用児童数については、同期間に2,022人から2,636人へと614人増加しており、学童保育室利用率も上昇し、平成31年には小学校児童の36.1%が学童保育室を利用しています。

■ 小学校児童数・学童保育室利用児童数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
小学校児童数	7,898	7,767	7,613	7,459	7,296
学童保育室利用児童数	2,022	2,225	2,346	2,505	2,636
(学童保育室利用率)	25.6%	28.6%	30.8%	33.6%	36.1%

出典：小学校児童数：学校教育課(各年4月1日)、学童保育室利用児童数：保育課(各年8月1日)

② 中学校生徒数の推移

平成27年から平成31年にかけて、中学校生徒数は、4,123人から3,844人へと279人減少しています。

■ 中学校生徒数の推移（人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
中学校生徒数	4,123	4,049	3,955	3,852	3,844

出典：学校教育課(各年4月1日)

(6) 地域子育て支援センターの利用状況

平成27年度から平成30年度にかけて、地域子育て支援センターの年間利用組数は33,409組から37,455組へと4,046組増加しています。

■ 地域子育て支援センター年間利用者数の推移（延べ組数）（組）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
地域子育て支援センター利用組数	33,409	37,080	37,291	37,455

出典：保育課

2-2 各種調査から見る現状

(1) 市民意向調査

① 調査目的

本調査は本計画で確保を図るべき教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」の算出及び子どもや保護者をとりまく子育ての課題を抽出し、市民の子育て支援に関する現在の利用状況や今後の利用希望を把握するために実施しました。

② 実施概要

<調査方法>

- ・郵送送付、郵送回収
- ・無記名回答（対象は住民基本台帳より層化無作為抽出）

<調査期間>

- ・平成31年3月1日～3月14日（14日間）

調査票		配布数	回収数	回収率	
1	就学前児童調査	3,700 票	2,469 票	66.7%	(前回)69.4%
2	小学生調査	1,000 票	648 票	64.8%	(前回)70.7%

※割合(%)は、小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

※複数回答の設問の場合、選択肢ごとの回答数の割合を示しています。そのため合計が100.0%を超える場合があります。

※グラフのn数は、サンプル数を表しています。

③ 調査結果の公表

本調査結果は、「深谷市子ども・子育て支援事業計画のためのアンケート調査結果報告書(令和元年)」として、本市のホームページで公開しています。



④ 調査結果の概要

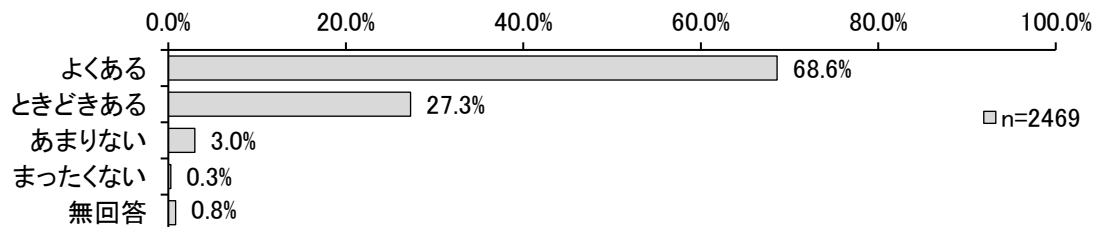
● 日ごろの子育て環境について

子育てや子育て支援などについて、「楽しいと感じることがある」と回答した保護者は就学前・小学生調査ともに過半数を上回っています。一方、「負担と感じることがある」と回答した保護者も多く見受けられます。

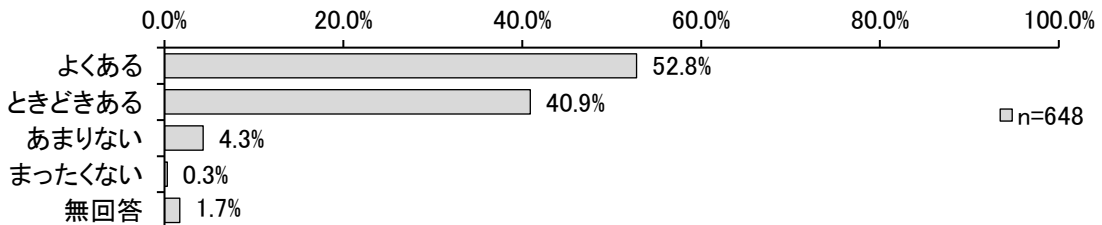
○ 子育てや子育て支援などについて、どのように感じていますか。

A. 楽しいと感じることがある

就学前児童では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、楽しいと感じる保護者が95.9%となっています。

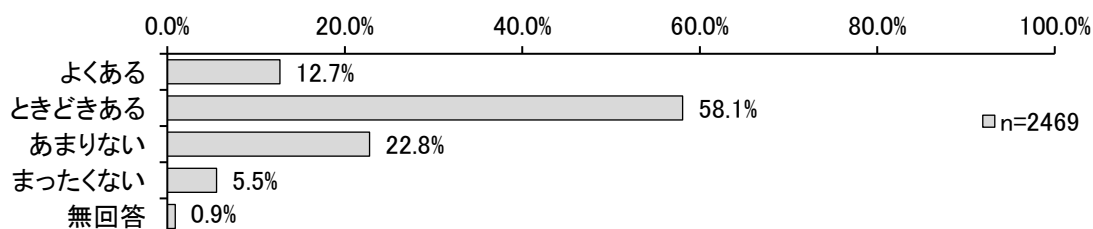


小学生では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、楽しいと感じる保護者が93.7%となっています。

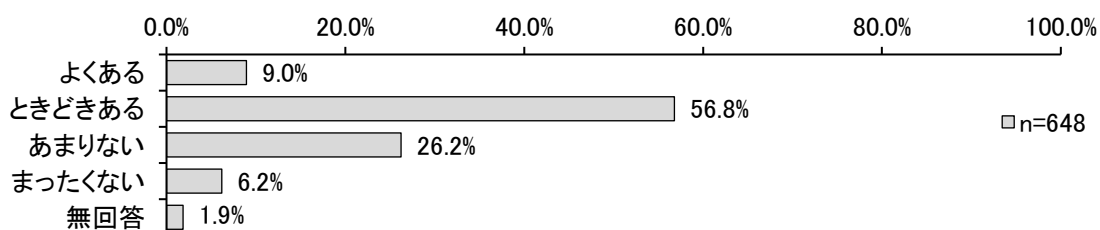


B. 負担と感ることがある

就学前児童では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、負担と感ることがある保護者が70.8%となっています。

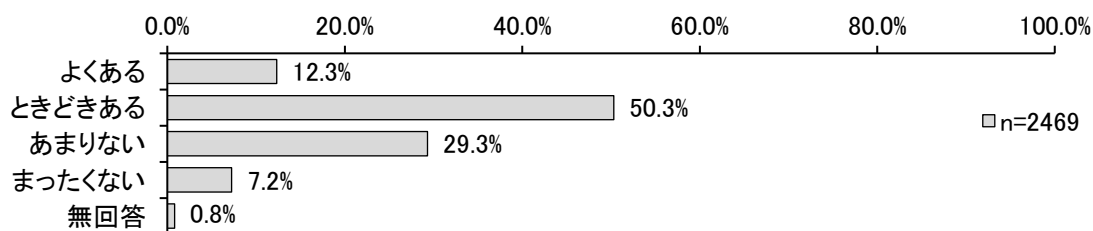


小学生では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、負担と感ることがある保護者が65.8%となっています。

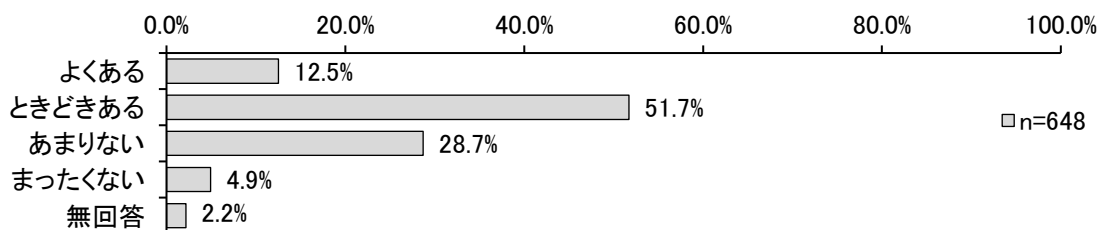


C. 不安を感ることがある

就学前児童では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、不安を感ることがある保護者が62.6%となっています。



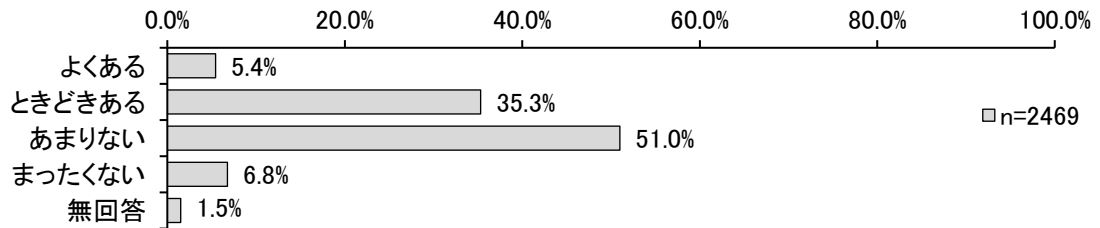
小学生では、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせて、不安を感ることがある保護者が64.2%となっています。



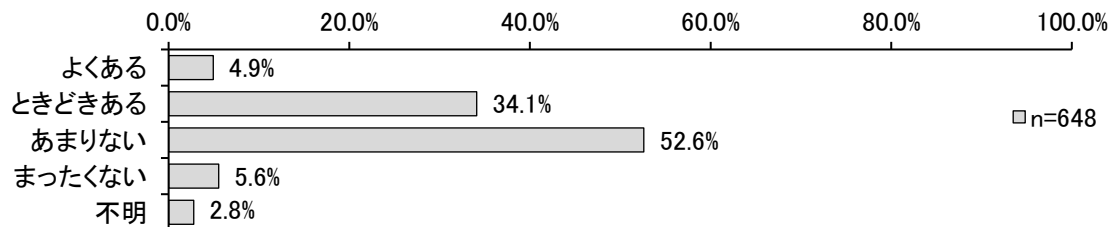


D. 自信を感じることもある

就学前児童では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、自信を感じることがない保護者が57.8%となっています。



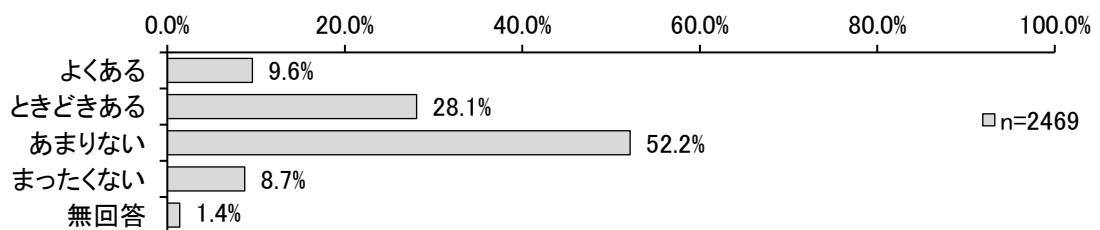
小学生では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、自信を感じることがない保護者が58.2%となっています。



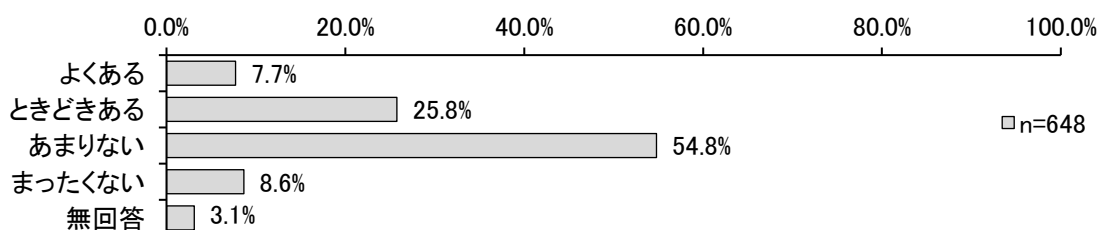
E. 住んでいる地域の子育て支援について不満を感じることもある

(行政・地域・民間のサービスや取組など)

就学前児童では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、不満を感じることがない保護者が60.9%となっています。



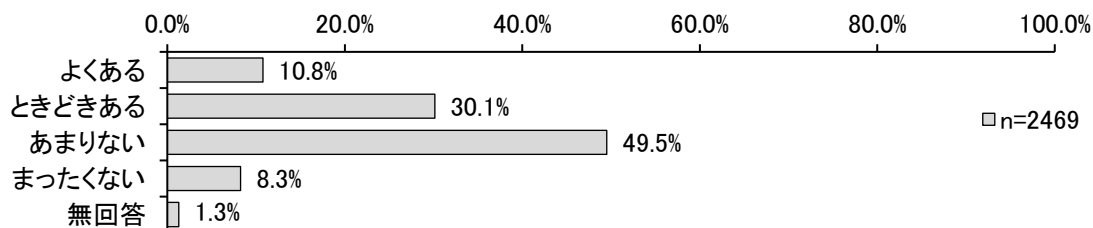
小学生では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、不満を感じることがない保護者が63.4%となっています。



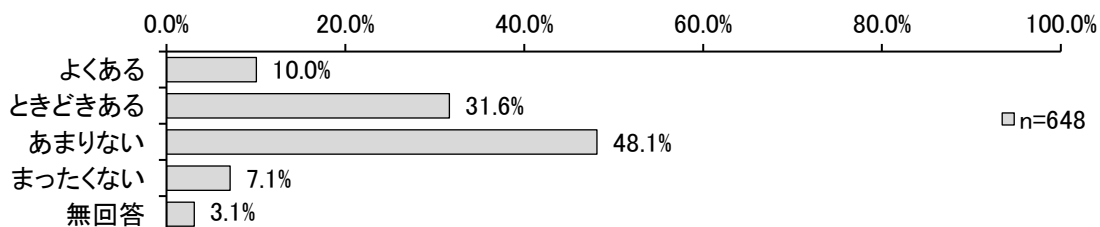
F. 住んでいる地域の子育て環境について不満を感じることがある

(地域のつながり・治安・自然など)

就学前児童では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、不満を感じることがない保護者が57.8%となっています。



小学生では、「あまりない」と「まったくない」の回答を合わせて、不満を感じることがない保護者が55.2%となっています。

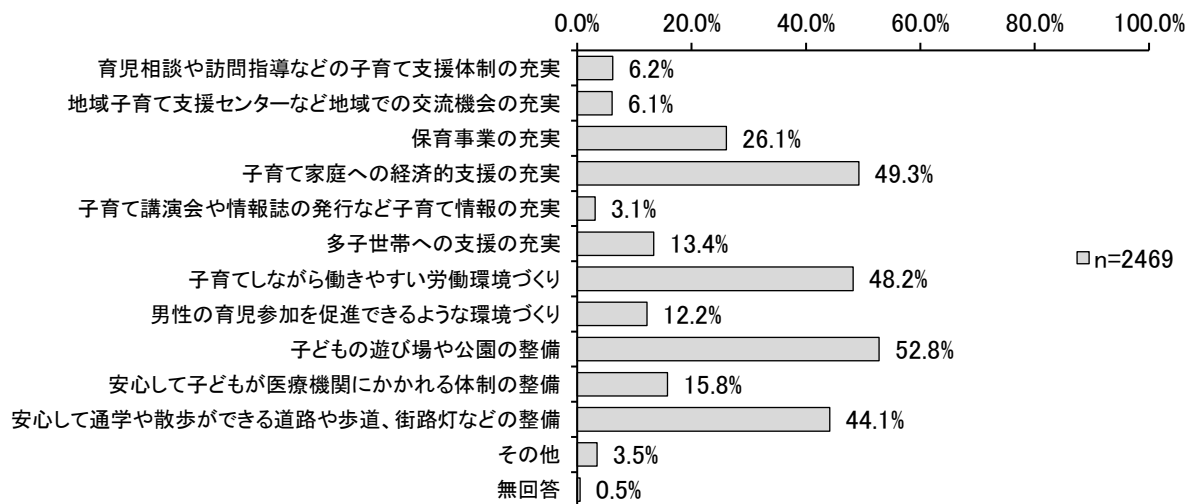




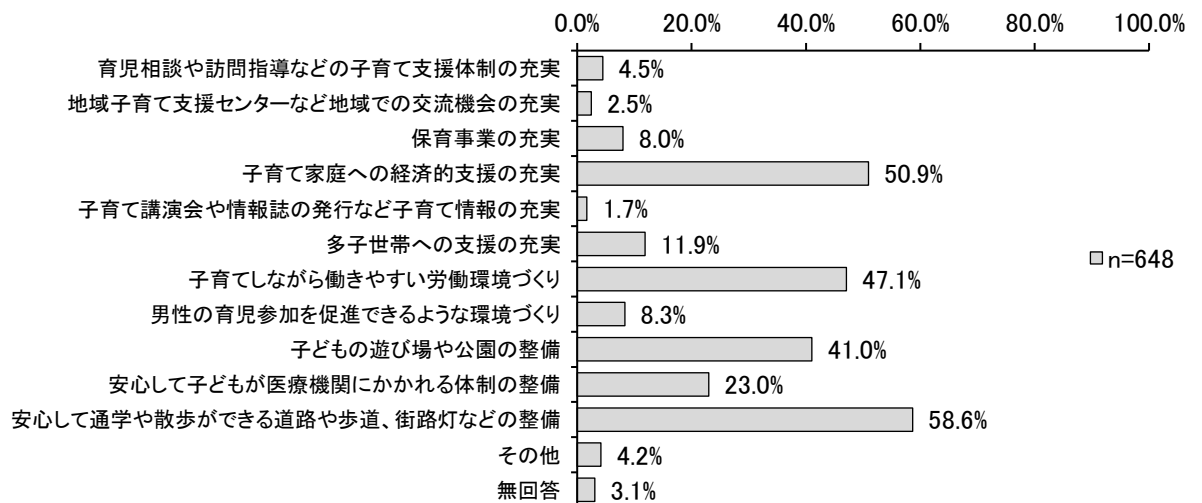
「市に対して、どのような子育て支援の充実を図って欲しいと期待していますか。」という設問では、就学前児童、小学生ともに「子育て家庭への経済的支援の充実」「子育てしながら働きやすい労働環境づくり」「子どもの遊び場や公園の整備」「安心して通学や散歩ができる道路や歩道、街路灯などの整備」が共通で上位を占めています。次いで、就学前では「保育事業の充実」、小学生では「安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備」と回答する人が多く、調査種別でのニーズの違いがわかります。

○ 市に対して、どのような子育て支援の充実を図って欲しいと期待していますか。

就学前児童では、「子どもの遊び場や公園の整備」が最も多く52.8%、次いで「子育て家庭への経済的支援の充実」が49.3%、「子育てしながら働きやすい労働環境づくり」が48.2%となっています。



小学生では、「安心して通学（通園）や散歩ができる道路や歩道、街路灯などの整備」が最も多く58.6%、次いで「子育て家庭への経済的支援の充実」が50.9%、「子育てしながら働きやすい労働環境づくり」が47.1%となっています。



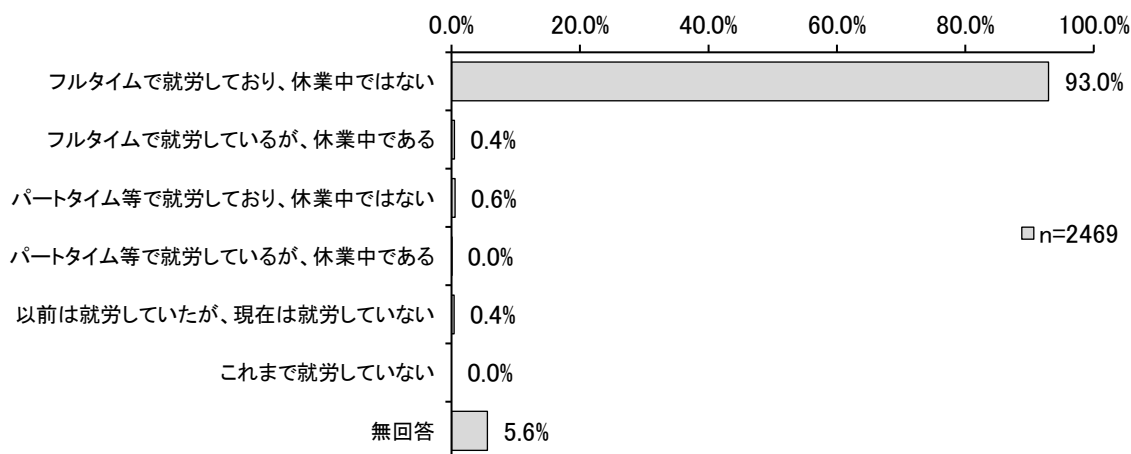
● 保護者の就労状況について

就学前児童に比べ小学生の母親のパートタイム等での就労割合が高くなっています。

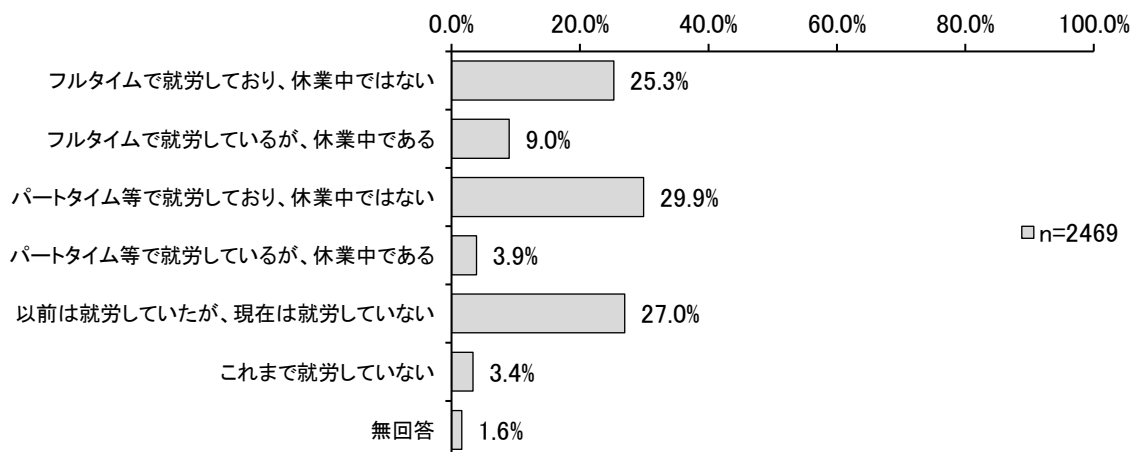
「以前は就労していたが、現在は就労していない」の回答では、就学前児童の母親27.0%と比べて小学生の母親は12.0%と少ないことから、子どもの就学を機に保護者の就労形態が変化していることが読み取れます。

○ お子さんのご両親の就労の有無と産休(育休・介護休業含む)等の状況を伺います。

就学前児童の父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が最も多く93.0%、次いで「パートタイム等で就労しており、休業中ではない」が0.6%、「フルタイムで就労しているが、休業中である」「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.4%となっています。

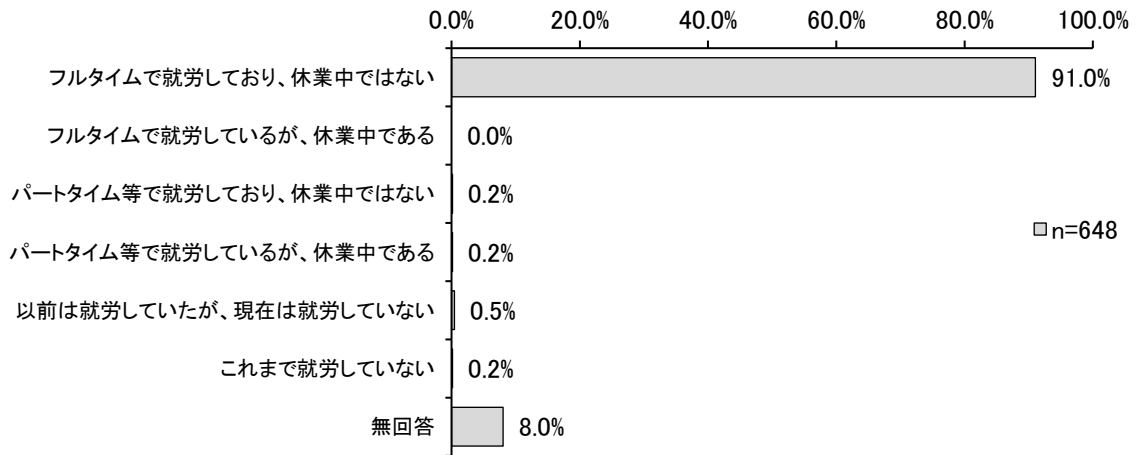


就学前児童の母親の就労状況は、「パートタイム等で就労しており、休業中ではない」が最も多く29.9%、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が27.0%、「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が25.3%となっています。

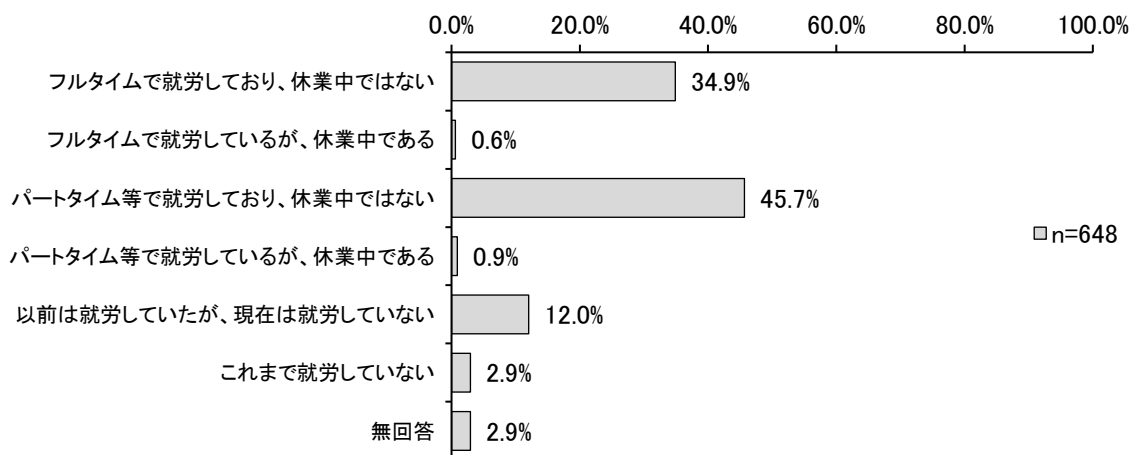




小学生の父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が最も多く 91.0%、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 0.5%、「パートタイム等で就労しており、休業中ではない」「パートタイム等で就労しているが、休業中である」「これまで就労していない」が 0.2%となっています。



小学生の母親の就労状況は、「パートタイム等で就労しており、休業中ではない」が最も多く 45.7%、次いで「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 34.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 12.0%となっています。

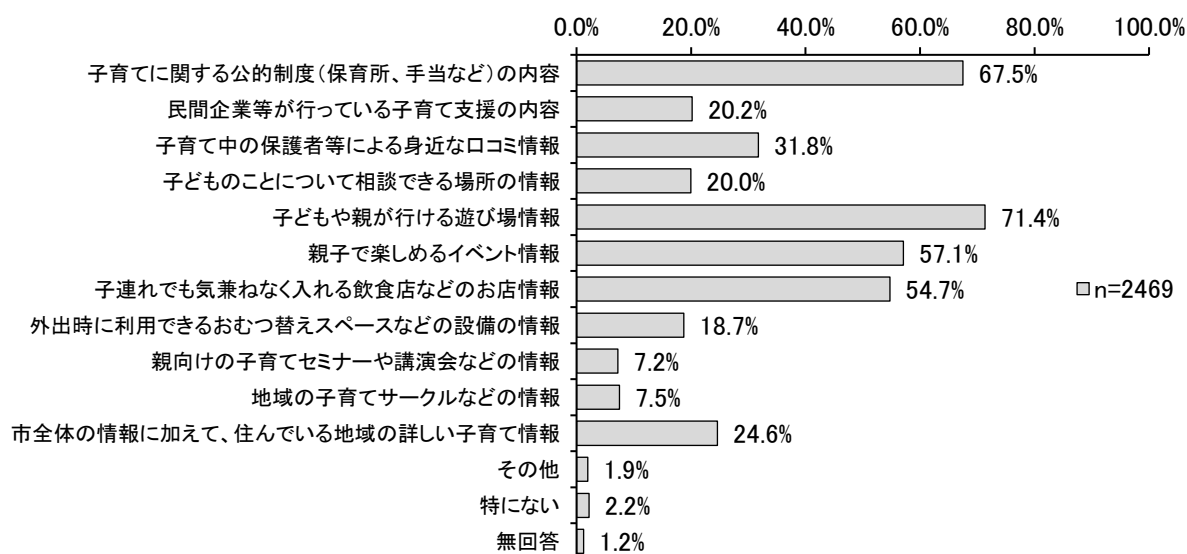


● 子育ての情報ニーズについて

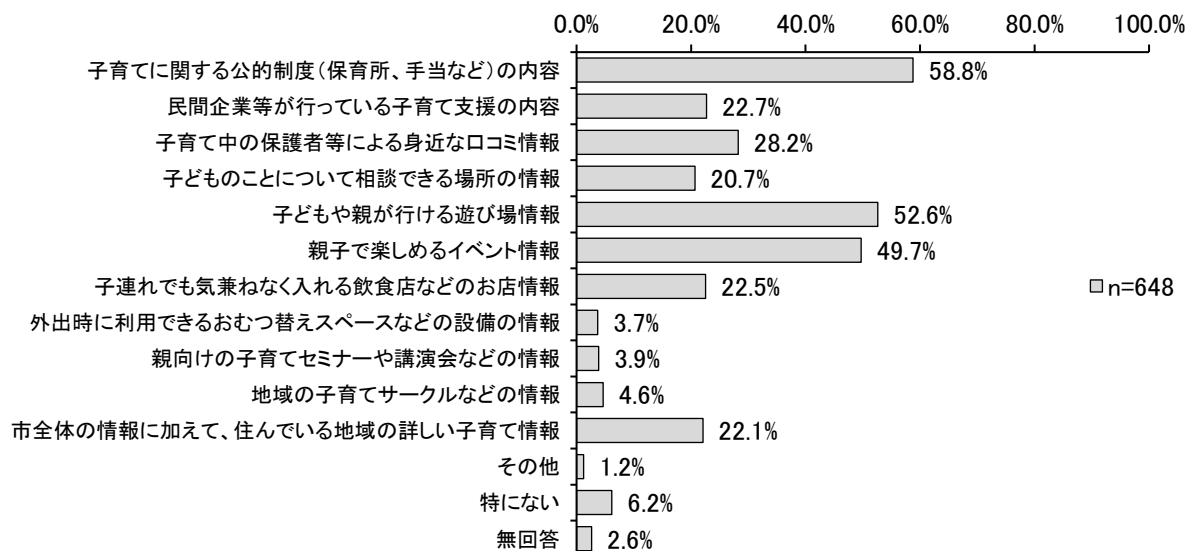
子育て情報として欲しいものとして、就学前児童・小学生ともに「子どもや親が行ける遊び場情報」「子育てに関する公的制度（保育所、手当など）の内容」「親子で楽しめるイベント情報」などのレクリエーションに関するニーズが高くなっています。

○ 子育て情報として欲しいものはどのようなものですか

就学前児童の子育て情報として欲しいものは「子どもや親が行ける遊び場情報」が最も多く71.4%、次いで「子育てに関する公的制度（保育所、手当など）の内容」が67.5%、「親子で楽しめるイベント情報」が57.1%となっています。



小学生の子育て情報として欲しいものは「子育てに関する公的制度（保育所、手当など）の内容」が最も多く58.8%、次いで「子どもや親が行ける遊び場情報」が52.6%、「親子で楽しめるイベント情報」が49.7%となっています。



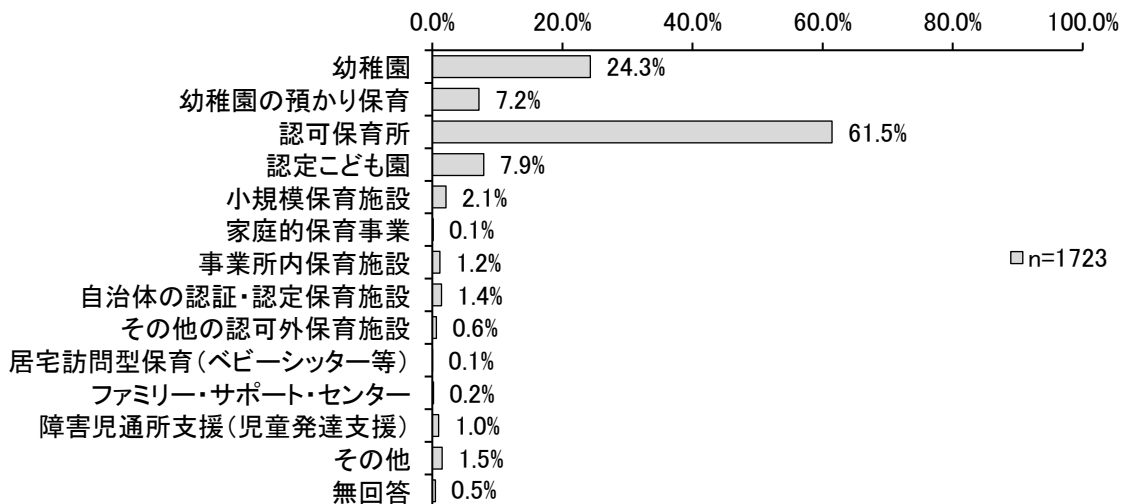


● 定期的な幼稚園や保育事業の利用状況について

教育・保育事業の利用者については、それぞれ「認可保育所」と「幼稚園」の利用者がほぼ全体を占めています。また、利用意向としても「認可保育所」と「幼稚園」が高いニーズを占める一方で、約2割の方が「認定こども園」を利用したいと回答しています。

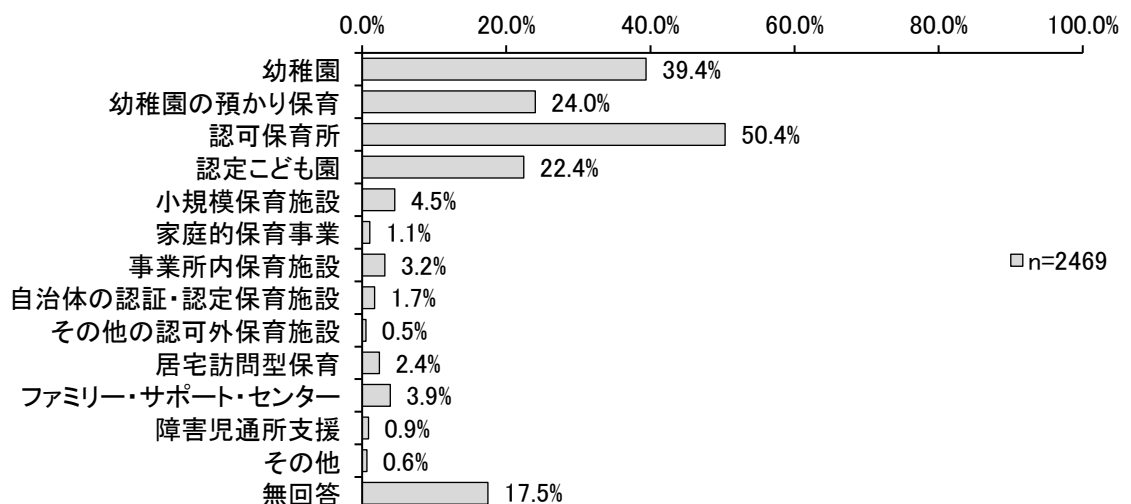
○ どのような事業を利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用している事業をお答えください。

「認可保育所」が最も多く61.5%、次いで「幼稚園」が24.3%、「認定こども園」が7.9%となっています。



○ 現在利用している、利用していないにかかわらず、お子さんが小学校入学までの間、平日に定期的にご利用したいと考える幼稚園や保育事業等は何ですか。

「認可保育所」が最も多く50.4%、次いで「幼稚園」が39.4%、「幼稚園の預かり保育」が24.0%となっています。

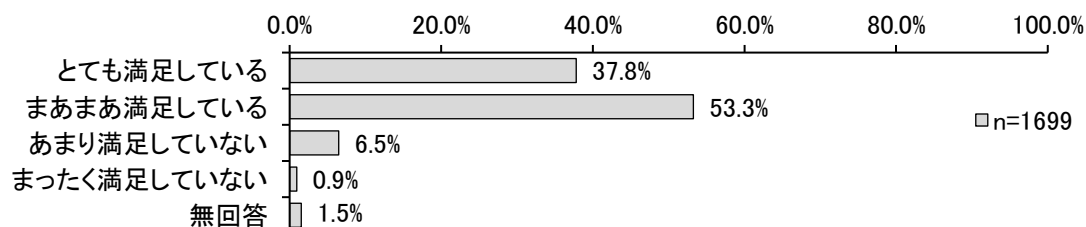


● 幼稚園や保育事業の満足度などについて

幼稚園や保育所に子どもを通わせている保護者の満足度は約9割となっています。（満足の高い理由は順に「自宅から近いから」「保育士・幼稚園教諭等の対応がよいから」「園内に調理室がある（給食がある）から」また、保育園や幼稚園等を選ぶ際には「自宅の近く」「保育士・幼稚園教諭等の対応」「施設・設備が清潔で整っている」ことが重視されており、満足度との関連性がうかがえます。

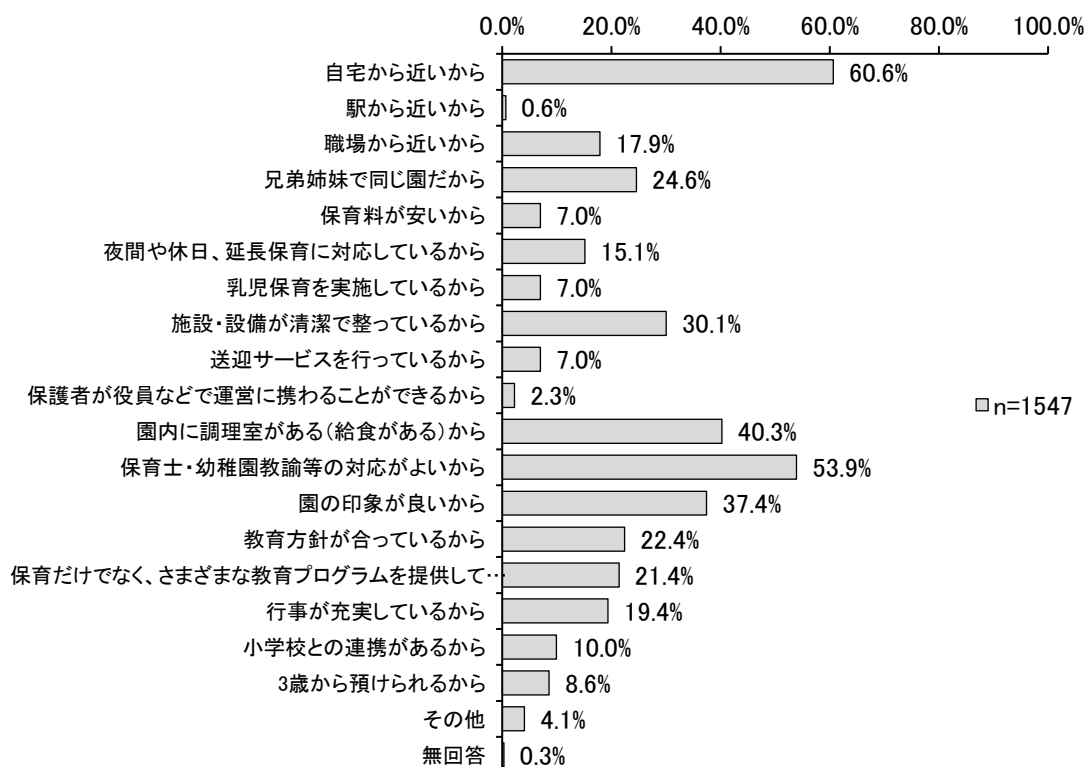
○ 現在利用している幼稚園や保育事業に満足されていますか。

「とても満足している」と「まあまあ満足している」の回答を合わせて、満足していると回答した保護者は91.1%となっています。



○ 現在利用している事業に満足している理由は何ですか。

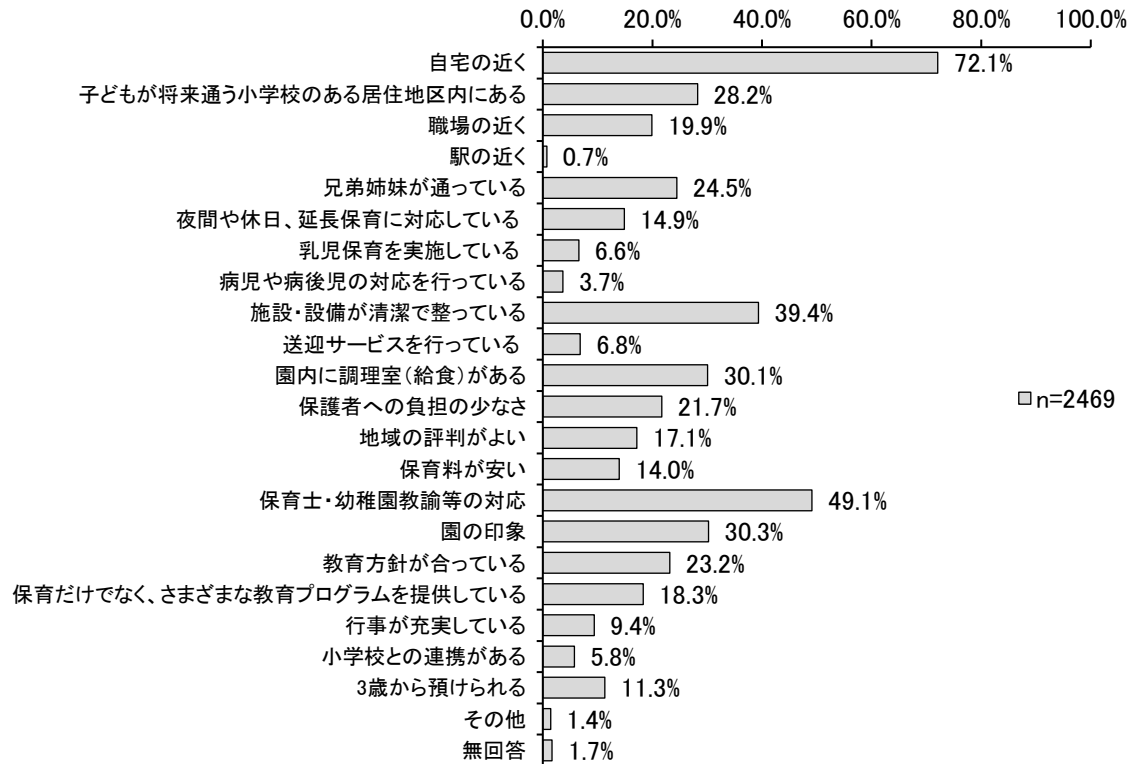
「自宅から近いから」が最も多く60.6%、次いで「保育士・幼稚園教諭等の対応がよいから」が53.9%、「園内に調理室がある（給食がある）から」が40.3%となっています。





○ 幼稚園や保育事業等を選ぶ際に、重視する点は何ですか。

「自宅の近く」が最も多く 72.1%、次いで「保育士・幼稚園教諭等の対応」が 49.1%、「施設・設備が清潔で整っている」が 39.4%となっています。

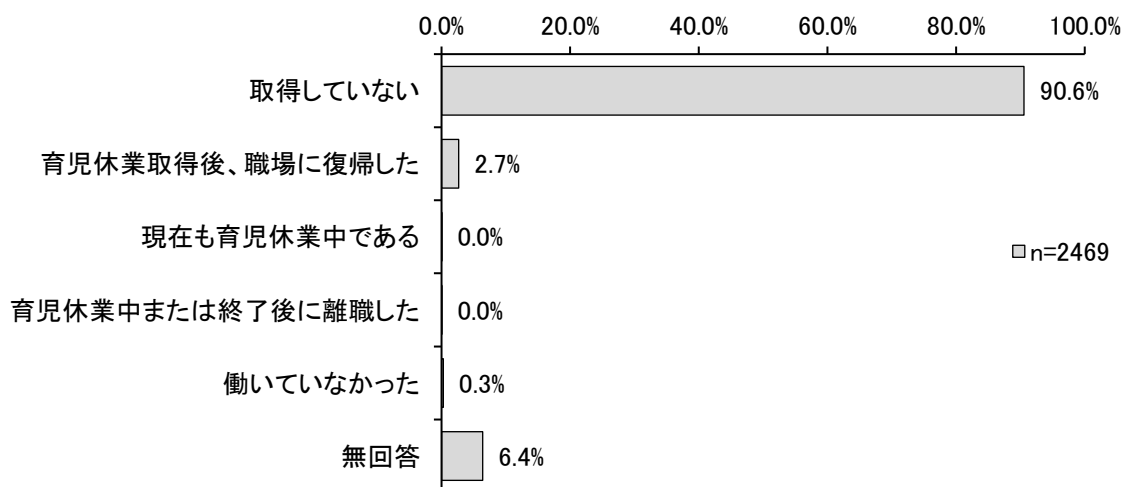


● 仕事と育児の両立支援制度について

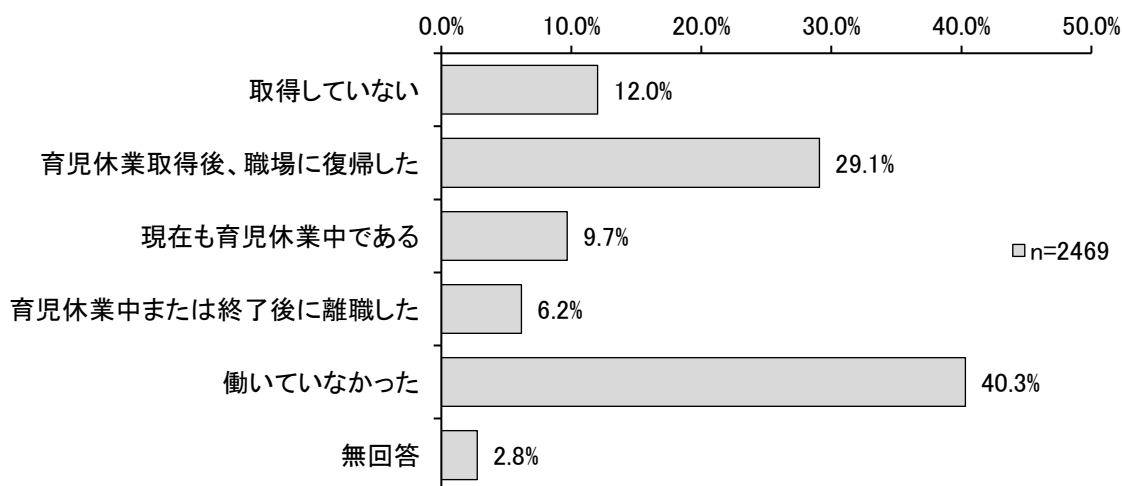
父親の約9割が就労を継続しており、育児休業の取得は母親が多くなっています。
職場に復帰した母親は約3割となっております。

○ お子さんが生まれた時、父母が育児休業を取得しましたか。また、職場に復帰しましたか。

父親では、「取得していない」が最も多く90.6%、次いで「育児休業取得後、職場に復帰した」が2.7%、「働いていなかった」が0.3%となっております。



母親では、「働いていなかった」が最も多く40.3%、次いで「育児休業取得後、職場に復帰した」が29.1%、「取得していない」が12.0%となっております。





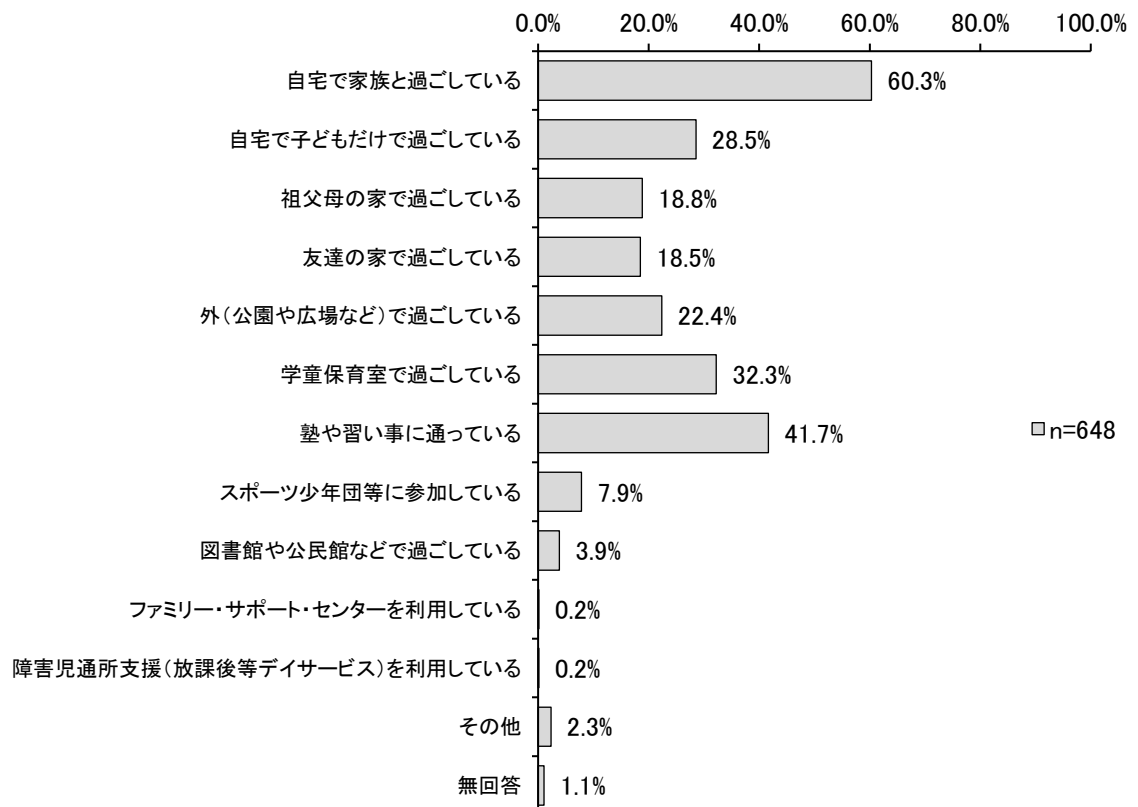
● お子さんの放課後の過ごし方について

自宅や友達の家、外で遊んでいる状況にある子どもが多くを占めていますが、学童保育室を利用している子どもは約3割となっています。

「放課後をどのような場所で過ごさせたいか」という設問に対して「学童保育室」と回答した割合は、小学校低学年において42.3%、小学校高学年において20.5%となっており、低学年においてより高いニーズを示しています。

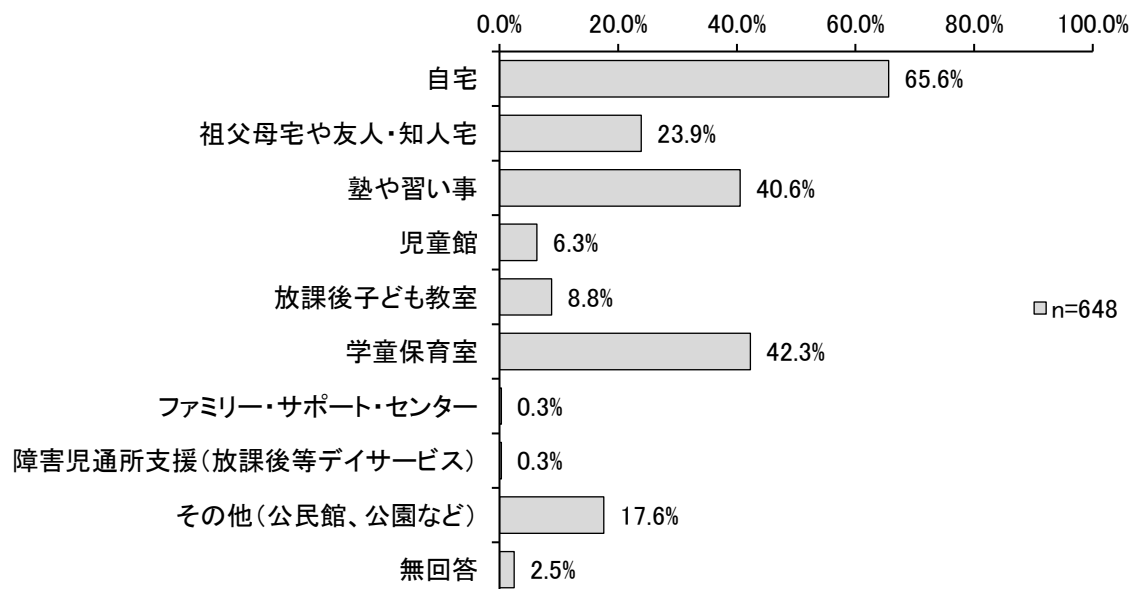
○ あて名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間を、主にどのような場所で過ごしていますか。

「自宅で家族と過ごしている」が最も多く60.3%、次いで「塾や習い事に通っている」が41.7%、「学童保育室で過ごしている」が32.3%となっています。



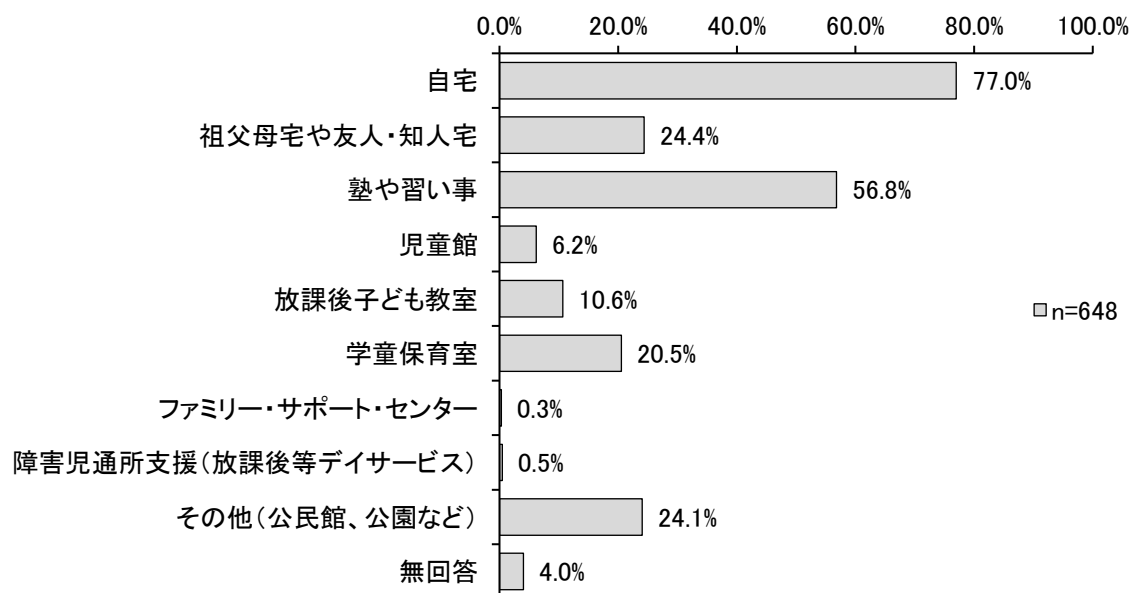
○ 現在のお子さんの学年にかかわらず、お子さんが小学校低学年であるうちは次の項目の中で、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

「自宅」が最も多く 65.6%、次いで「学童保育室」が 42.3%、「塾や習い事」が 40.6%となっています。



○ 現在のお子さんの学年にかかわらず、お子さんが小学校高学年であるうちは次の項目の中で、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

「自宅」が最も多く 77.0%、次いで「塾や習い事」が 56.8%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 24.4%となっています。



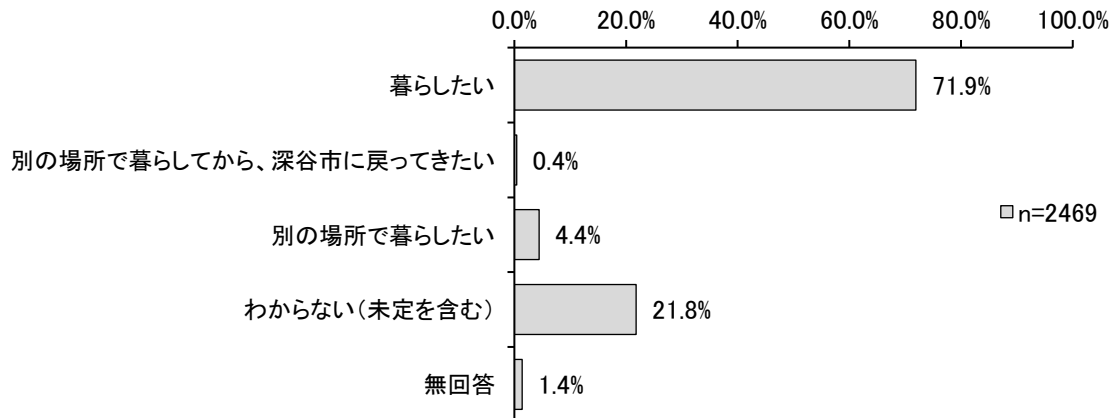


● 子育て支援について

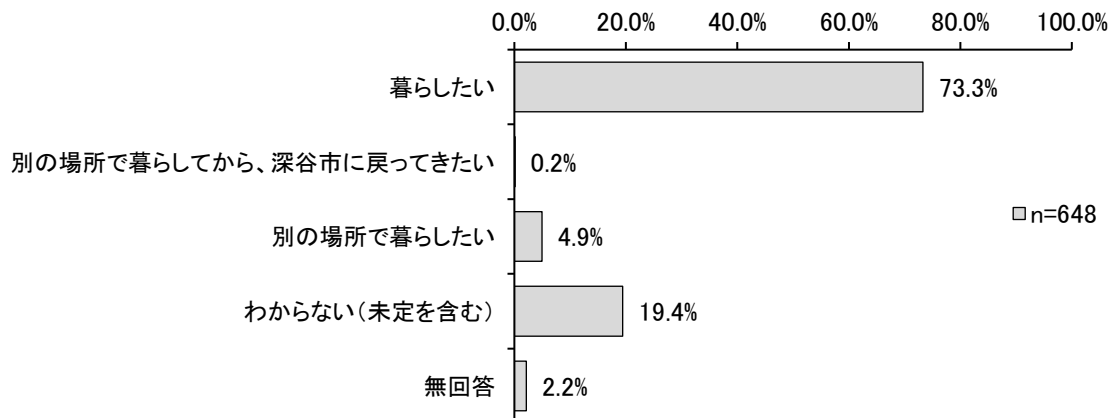
今後の子育てについて、本市での居住を継続して子育てしていきたいと回答した保護者は、就学前児童・小学生ともに7割を上回っています。

○ これからも深谷市で子育てをして暮らしていきたいですか。

就学前児童では、「暮らしたい」が最も多く71.9%、次いで「わからない(未定を含む)」が21.8%、「別の場所で暮らしたい」が4.4%となっています。



小学生では、「暮らしたい」が最も多く73.3%、次いで「わからない(未定を含む)」が19.4%、「別の場所で暮らしたい」が4.9%となっています。



(2) 関係団体意識調査

① 調査目的

本計画の策定に向けて、より深谷市らしい計画を策定するために、市民意向調査では把握しきれないニーズを把握することを目的として、関係団体からの意識調査を実施しました。

② 実施概要

<調査方法>

- ・郵送送付、郵送回収

<調査期間>

- ・令和元年8月2日～8月23日

<調査対象>

- ・深谷市民間保育協議会、深谷市学童保育連絡協議会
ほか市内の保育施設、障害児施設等

③ 調査結果（一部抜粋）

問. 深谷市内で展開されている保育事業や幼児教育事業の良いところはなんですか

区分	意見の概要
保育施設	<ul style="list-style-type: none">・施設によって様々な特色があるところ。・各小学校に学童保育環境が整備されている。・子ども達や保護者のために様々な事業を展開し子育て支援センターが充実しており、育児相談等もしやすく、施設を自由に利用できる広場もあり良いと思う。・小学校等の連携ができていて、小1ギャップの対応がスムーズ。・幼児教育は学校との交流が多くあり、小学生になるための準備ができる。・家庭保育室から小規模保育施設への移行にともない、運営費の補助があり有難く思う。それにより保育活動に活かしやすい。
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none">・各事業に幅広く対応している。ホームページの障害福祉の手引きはわかりやすい。・保護者の負担や悩みを市を含む第三者的機関が立ち会うことにより軽減できている。・障害のある子も保育園・幼稚園に入園でき、現場の保育士さんの努力で成長している。保護者も成長している。



問. 深谷市内で展開されている保育事業や幼児教育事業で課題と感じる点はなんですか。

区分	意見の概要
保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館等、休日・悪天候時に遊べる場が少ない。 ・施設と職員の確保。 ・保育士不足が深刻化しており、保育士の確保が課題。 ・小規模保育事業所は特に年間通じての入所児数が不確実で経営が不安定である。 ・0～2歳児の年度途中での入所が難しい。
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児情報を共有できる仕組みが十分でない。 ・障害児向け参加型のイベント開催を増やし、社会との関わりと障害児への理解を深めてほしい。 ・病児保育園が少ない。 ・保護者に対して放課後等デイサービス事業内容をアピールする機会があまり設けられていない。

問. 保育・教育の質を高めるため、事業者として取り組んでいることはありますか。

区分	意見の概要
保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市で実施している研修会や講習会等に参加している。 ・地域の方々を招き、他者との関わりの中で情報の共有を図っている。 ・保育参観、懇談会を開催し、保護者との連携を図り信頼関係を築いている。 ・連携施設との交流により保育士としての質を高めている。
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に資格取得、研修参加、勉強会などでスキルアップしている。 ・利用者の学校担任と引き渡し時、情報交換、計画相談等とおしてモニタリングを行い、支援情報の共有を図っている。 ・職員ミーティングを密に行う。(理学療法士、言語聴覚士、コーディネーターの助言等に基づき会議する)

問. 保育・教育の質を高めるため、今後取り組みたいと思うことはなんですか。また、その際に市に協力してほしいと思うことはなんですか。

区分	意見の概要
保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・学童では職員が子どもたちの勉強をサポートするとともに遊ぶこと(子ども達が体を動かす環境整備)も大切。若い職員を正規雇用できるような仕組みを充実させてほしい。 ・多子世帯減免制度の拡大。(保育園だけでなく学童にも拡大してほしい) ・各施設においても安心して過ごすための修繕費の補助の仕組みの充実。 ・出来るだけ多くの研修に参加したい。研修の情報・設定をお願いしたい。

区分	意見の概要
保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT スキルを身につけるためのプログラム。 ・市の主催の研修(市の幼稚園)に参加させてもらいたい。 ・社会の中における保育(教育)への課題に向けた研修会の実施と今後考えられる保育課題や解決に向けての専門家を招いての研修会の実施。 ・子どもの未知なる可能性や資質を引き出すための機会を増やしたい。その際に公共施設の開放や機関との橋渡し役、情報提供をお願いしたい。 ・子育て世帯に伝える研修や参加型の子育てプログラムなど子育て目安普及を0歳児から進めてもらいたい。
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得、研修参加に前向きに取り組み、スタッフ全員の質を高めたい。 ・新人、中堅、管理者などに分かれた内容の研修を企画してほしい。 ・保育/教育の質を高めるためには保護者と協力し、保護者に説明する力を身につけていきたい。 ・人材確保・育成(後継者)が課題。

問. 保育園・幼稚園や学校との連携状況はいかがですか。

(障害児学童保育室・障害児通所施設のみ)

区分	意見の概要
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業所が入っているご家庭では学校との連携がとれている。 ・入園・入学にあたっては情報提供のため各園・学校と会議している。学校体験等も行っている。教育委員会の担当者に子どもの様子を見てもらっている。

問. 市の障害児行政に対してどのように感じていますか。

(障害児学童保育室・障害児通所施設のみ)

区分	意見の概要
障害児学童保育室 障害児通所施設	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス等の受けられるべきサービス情報がサービス対象保護者に行き渡っていない。 ・障害を持った子どもたちが遊びやすい場所を増やしてほしい。 ・公民館の施設利用の団体登録をしやすくしてほしい。 ・障害児については早期発見、早期療育を目指しているので、なるべく早い月齢で無料で通えるようなシステムになってほしい。 ・市の障害児行政については丁寧に対応してもらっている。